

## 2021年3月期第1四半期決算説明資料

発表日時：2020年7月29日（水）16:00（今回、説明会の開催はございません）

### 【2021年3月期第1四半期連結決算の概要】

- まず、パワーポイントのスライド1をご覧ください。
- 今回の決算のポイントです。売上高は、競争激化や新型コロナウイルス感染症の影響で東京電力グループの販売電力量が減少したことなどにより、減収となりました。
- また、経常損益は、グループ全社を挙げた継続的なコスト削減に努めたものの、売上高の減少に加え、JERAにおいて燃料費調整制度の期ずれ影響が悪化したことなどにより、減益となりました。
- さらに、四半期純損益についても、前年同期の特別利益の反動減などにより、減益となりました。
- 具体的な連結決算の数字については、スライド2をご覧ください。
- 売上高は、前年同期比 10.8%減の 1 兆 3,413 億円と減収、経常損益も、30.5%減の 685 億円と減益となり、特別損益を加えた四半期純損益は、298 億円と減益となりました。

### 【セグメント別のポイント】

- スライド3、4では、セグメント別の業績をご説明いたします。
- 2020年4月に、東京電力ホールディングスから東京電力リニューアブルパワーが分社化し、再生可能エネルギー発電事業を承継しております。
- それに伴い、新たなセグメントとして東京電力リニューアブルパワーを加えたセグメント別の概要をご説明いたします。
- なお、比較対象となる2019年4-6月の数値については、東京電力ホールディングスから東京電力リニューアブルパワー相当分を差し引き、双方に分けて表示しております。
  
- まず、東京電力ホールディングスの業績です。
- 売上高は、東京電力エナジーパートナーへの御電力販売の減少などにより、前年同期比 339 億円減の 1,292 億円、経常損益は、それに加え基幹事業会社からの受取配当金が減少したことなどから、687 億円減の 795 億円となりました。

- 次に、東京電力フュエル&パワーの業績です。
- 経常損益は、火力発電事業等を承継したJERAにおいて、燃料費調整制度の期ずれ影響が悪化したことなどにより、前年同期比365億円減の92億円となりました。
  
- 次に、東京電力パワーグリッドの業績です。
- 売上高は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、政府が緊急事態措置を実施したことから、商業施設やオフィスビルを中心に電力需要が落ち込んだことなどで託送収益が減少し、前年同期比15億円減の4,107億円となりました。
- また、経常損益は、減価償却費などが減少したものの、託送収益の減少により、18億円減の407億円となりました。
  
- 続いて、東京電力エナジーパートナーの業績です。
- 売上高は、競争激化や新型コロナウイルス感染症の影響により、販売電力量が減少したことから、前年同期比1,795億円減の1兆1,994億円となりました。
- 一方、経常損益は、東京電力ホールディングスからの購入電力の減少などにより、232億円増の112億円となりました。
  
- 最後に、東京電力リニューアブルパワーの業績です。
- 売上高は、東京電力エナジーパートナーへの卸電力販売の増加などにより、前年同期比110億円増の399億円、経常損益は、96億円増の178億円となりました。
- なお、連結およびセグメント別の前年同期比較の資料を参考として添付しております。

#### 【連結特別損益の概要】

- 連結特別損益については、スライド5をご覧ください。
- 特別損失は、原子力損害賠償費として365億円を計上いたしました。
- これにより、特別損益は365億円の損失となり、特別利益を計上した前年同期と比べ、2,240億円の減となりました。

**【連結財政状態の概要】**

- スライド6をご覧ください。
- 自己資本比率は、前年度末より0.5ポイント改善し24.8%となりました。
- これは、四半期純利益が黒字であったことで純資産残高が増加したことに加え、前年度末に計上した営業債務にかかる支払いを行ったことで、資産・負債残高が減少したことなどによるものです。

**【2021年3月期業績予想】**

- 最後に、2021年3月期の業績予想については、引き続き、未定としております。

**【参考資料（スライド7以降）、補足資料（スライド15以降）】**

- スライド7以降は参考資料および補足資料です。

以 上